

2004年10月6日

～ 駅からまちへ、まちを詠む～

「駅から俳句」開催について

J R 東日本では、観光流動の活性化に向けて2000年より「駅からハイキング」を開催し、昨年度約350コース、約20万人の方にご参加いただいています。

このたびテーマ性をもった新しい形の「駅からハイキング」イベントとして、街を歩きながら俳句を詠む「駅から俳句」を開催することとなりました。

選者に現在気鋭の女流俳人として活躍中の黛まどかさんを迎えるとともに、従来の投句箱に投句するだけではなく、NTTドコモの協力を得て、携帯電話からのメール投稿も受け付けるなど、新しい形の俳句イベントです。

ぜひ秋の一日、ペンや携帯電話を片手に一句詠んでみませんか。



講師の黛まどかさん

1. 開催日：2004年11月20日（土）（雨天実施）【高崎線熊谷駅集合 9:00～9:40】
イベントの終了は16:00頃を予定しています。
事前に電話でのお申し込みが必要です。
2. 開催場所：埼玉県熊谷市
3. 主催：東日本旅客鉄道株式会社
4. 後援：埼玉県熊谷市
5. 講師：黛まどか（俳人）【プロフィール：別紙】
6. イベント内容：
 - （1）オリジナルマップを参考に自由に史跡・名所を巡り、吟行を楽しんでいただきながら、投句ポイントで自作の句を一人2句まで投稿していただけます。
 - （2）携帯電話からも俳句を投稿していただけます（協力：NTTドコモ）
 - （3）投稿された作品の中から講師が選句を行い、優秀作品の表彰を行います。
 - （4）講師から「俳句」に関するお話を聴く会をあわせて行います
7. 参加費：第1回記念として無料でご参加いただけます。
交通費・昼食・入館料は各自ご負担となります。
8. 募集人員：500名【定員になり次第締め切らせていただきます】
9. お申し込み方法：事前にお電話にてお申し込みください。
 - （1）受付開始：2004年10月12日（火）10:00より
 - （2）受付終了：2004年11月17日（水）17:00まで
受付終了前でも定員になり次第締め切らせていただきます。

お申し込み受付電話：「駅から俳句」事務局

電話：03-5447-7983（期間中の祝日除く月～金曜日 10:00～17:00）

お申し込みの際は、参加人数、全員のお名前、電話番号、ご住所、郵便番号をお知らせください。

本イベントは「駅からハイキング」ポイントの対象となりませんのでご注意ください

別紙 講師プロフィール

黛 まどか

俳人。神奈川県生まれ。

1994 年『B面の夏』50 句で第 40 回角川俳句賞奨励賞を受賞。

女性だけの俳句結社『月刊ヘップバーン』代表。

1999 年北スペイン・サンチャゴ巡礼道を踏破したのに続き、2001 年 8 月～2002 年 10 月
韓国釜山からソウルを徒歩で踏破。

2002 年 5 月、句集『京都の恋』にて第 2 回山本健吉文学賞受賞。

主な句集に『B面の夏』、『花ごろも』

主な著書として『ら・ら・ら「奥の細道」』、『星の旅 人』、『聖夜の朝』、『サランヘヨ』、『こころ
に残る手紙の書きかた』。最新刊『知っておきたい「この一句」』（PHP エル新書）

熊谷市の見どころ

いずれも市内中心部（熊谷駅から1キロ圏内です）

星溪園（せいけいえん）

星溪園は、約3,600平米の敷地内に、星溪寮、松風庵、積翠閣の3つの建物と玉の池、さらに100数十種の植物や40数個の庭石を配した回遊式庭園で、熊谷の発展に数々の偉業を成した竹井澹如翁によって、慶応年間から明治初年にかけてつくられました。

明治17年(1884)に時の皇后(昭憲皇太后)がお立ち寄りになり、大正10年(1921)には秩父宮がお泊まりになるなど、知名士の来遊が多くみられました。

昭和25年に熊谷市が譲り受け、翌年星溪園と名付け、昭和29年に市の名勝として指定されました。

平成2年から4年にかけて建物と庭園の整備がなされ、建物は数奇屋感覚を取り入れた格調高いものとなり、優雅で格調高い日本文化の良さを体感できる施設として、お茶会なども開催されています。



熊谷寺（ゆうこくじ）

熊谷寺は、高さ十三間（24メートル）間口十四間（25.4メートル）奥行十六間（29メートル）の総檜造りの大伽藍で、熊谷次郎直実のゆかりの寺です。

源頼朝に「日本一の剛の者」といわしめた武蔵武士・直実は、源平一の谷の合戦で平家の若武者・平敦盛を討ち取る軍功をあげましたが、戦乱とはいえ弱冠16歳の首を取った諸行や繰り返した殺生を悔い、高野山熊谷寺（くまがいじ）に敦盛の菩提を祈り供養塔を建てると共に、自ら出家して蓮生坊を名乗り、法然上人に師事して仏道修行に明け暮れました。

熊谷寺は、直実が草庵を結んだことに始まり、天正年間（1573～92）直実の遺徳をしのんで幡隨意上人が中興して熊谷寺と号したといわれます。安政元年（1854）の火災で焼失した伽藍は、明治半ばから再建のための浄財寄付が始まり、同40年（1907）4月10日、蓮生法師700年忌を期して上棟されたのが現在の熊谷寺です。



その他にも、市内中心部には、水と彫刻に親しめる「星川」をはじめ、さくらの名所「荒川堤」、木造の繭蔵をそのまま残し、実際に使用していた機械などを展示する「片倉シルク記念館」など、多くの見どころがあります。

また、草加の煎餅、川越の芋菓子とともに、埼玉の3大名菓といわれている「五嘉棒（ごかぼう）」や、溶いた小麦粉に刻んだ長ネギと桜えびと豚肉少々をよく混ぜて、薄く伸ばして焼くローカルフードの「フライ」などの食もおもしろい素材です。

常光院（じょうこういん）

駅からちょっと足をのばすと・・・（タクシー10分程度）

「たっぴりと 鳴くやつもいる タビぐらし」・・・

熊谷市に在住する金子兜太（かねこうた：現代俳句協会会長）の句碑がある寺が天台宗別格本山常光院です。ここは中条氏の館跡で、藤原鎌足の末裔常光が長承元年（1132）武蔵の国司に任ぜられて下向し、この地に館を構えて中条の姓を名乗りました。その子有家の長男、中条藤次家長は文武両道に秀で、鎌倉幕府の評定衆となり、わが国初の武家の法律「貞永式目（御成敗式目）」を定めたのです。建久3年（1192）家長は祖父常光公の菩提を弔う為に館を寺とし、龍智山常光院毘盧遮那寺と名づけました。茅葺きの大本堂の西、うっそうとした杉林の中の遊歩道に導かれた奥には中条判官常光公の墓、その後ろには初代忍城の城代を勤めた天野彦右衛門忠重を筆頭に三代の墓（市指定史跡）が、常光公を守るように並んでいます。

